



宮司プレス 第百五十九号

彦島八幡宮 宮司ニユース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和二年九月 十五日

◇宮司の柴田です。 宮司プレス既刊号(きかんごう)の第六十四号、百十七号、さらには、百二十六号にも掲載しましたが、

「秋来ぬと 目にはさやかに 見えねども 風の音にぞ おどろかれぬる」

よきよ)しておきましたので、スムーズに作業を終えました。 朝明けの風は、汗ばむ肌心地よく、まさに、「秋来ぬ」であります。

◇さて、宮司プレスの発行状況を報告し、遅延(ちえん)の弁明(べんめい)にて紙面の原稿(ちえん)を埋(う)めるのが、「ルーティーン」でしたが、

秋が来たと、目には、はつきりとは見えないけれども、風の音によって、その秋の訪れに気づかされるといふ、「古今和歌集」秋歌の巻頭歌で、藤原敏行の歌です。 立秋の日に詠まれた歌で、実際には、まだ来ぬ秋を思い浮かべて詠(よ)まれています。 朝明けが遅く、夜の帳(とばり)が降りてくるのも早くなりつつありまして、日が短くなってきました。 朝

今年(ことし)は、一切(いっさい)封印(ふういん)をしております。 それもそのはずで、今年(ことし)は、当たり前(あたりまえ)のことではありませんが、毎月発行を継続(けいぞく)しているからです。 たまには、発行状況(はつこうじょうけい)も確認(かくにん)も含めて報告(ほうこく)させていただきます。 一年(いちねん)発起(はつし) (いちねんほつき)して、毎月発行するといふ大目標(だいぎく)を翻(ひる)がえし、記念すべき第一号(だいいちごう)を発行したのは、今を去る十四年前、平成十八年六月、宮司就任(きうじん)二年目のことでした。

明(あ)けの境内(けいん)は、いくらかしのぎやすくなり、秋の気配(きはい)を感じています。 ◇今日の早朝(そうさう)、五時半(ごはん)から約(やく)一時間半(いっしゅうかん)を費(た)やして、拝殿前(はいでんまへ)の清掃奉仕(せいじょうほうじ)に勤(いそ)しました。 宮司プレス百五十五号(ひゃくごじゅうごごごう)に詳(しょう)述(じゆつ) (しょうじゆつ)しましたように、

本来(ほんらい)なら、毎月発行を継続(けいぞく)していたならば百七十二号(ひゃくにしじゅうにごう)です。 十三ヶ月遅(おそ)れている、言(い)いかえれば、十三ヶ月休刊(きゅうかん)を余儀(よぎ)なくされたという(いう)ことになりま。 俄(にわ)かには信じ(しんじ)がたいのですが、発行日(はつこうにち)の詐称(さしょう) (さしょう)は、若干(せうぜん)ありましたが、第九十一号(だいきゅうじゅういちごう)までは、毎月発行を継続(けいぞく)していたようです。 これ以上の

「枯山水(かれさんすい)」とは少し大袈裟(おおげさ)ですが、拝殿前(はいでんまへ)の「目立て」の作業(さくぎ)をさせていただいたのです。 昨日(けふ)に、あらかた、落ち葉(おちば)等を「ジャンボ竹(さんぼたけ)がんぜき」で、除去(じょ

遅延(ちえん)の累積(るいせき)がなされぬよう、つとめて参(ま)る所存(しよぞん)です。 ◇新型コロナ感染症(しんこころなかんせんせい)は、瞬(またた)く間に国境(こくけい)を越(こ)え、経済(けいぎ)、産業(さんぎん)、安全保障(あんぱんほしょう)に様々な負(おん)の影響(えいこう)を及(およ)ぼす、インパクトを与(あた)える、まさに、その感染症(かんせんせい)の恐怖(こふ)というものを思い知らされています。 総合研究大学院(そうごうけんきゅうだいがくいん)の長谷川(はせがわ)大学長(だいがくちやう)は、「感染症(かんせんせい)は都市化(としか)の代償(だいじやう)」と仰(おつしや)っています。 人類(じんるい)の祖先(そぜん)のホモ属(ほもぞく)が生まれて二百万年(にひゃくまんねん)、ホモ・サピエンス(ほも・さひえんす)が進化(しゆか)してから二十万(にじゅうまん)〜三十万(さんじゅうまん)年(ねん)がたち、百万人(ひゃくまんにん)が住(す)むような大都市(だいとし)が出てきたのはせいぜい数百年(すうひゃくねん)にすぎないそうです。 特(とく)に都市(とし)に集(あ)まって一(いっ)緒(じゆ)に住(す)んでいる限り(かぎり)、人類(じんるい)は、コレラ、チフス、ペストなど感染症(かんせんせい)の問題(もんだい)を抱(かか)こんできたのです。 現在(げんざい)、世界人口(せかいじんこう)の七十八億人(しちじゅうはちいっぴやくにん)のうち都市(とし)に住(す)む人は五十パーセント(ごじゅうぱーせんと)を超(こ)すようでありまして、そのことを長谷川(はせがわ)大学長(だいがくちやう)は、人類史(じんるいし)的にみて異常(いじやう)な状況(じょうけい)であると仰(おつしや)っています。 都市化(としか)が進(すす)み生活(せいかつ)は便利(べんり)になる反面(はんめん)、つなかりの希薄(きぱく)さや脆弱性(じやくせい) (せいじやくせい)が露呈(ろてい) (ろてい)しています。 しかも、コロナ禍(コロナか)によって世界中(せかいじゅう)に至(いた)るところで、多くのことが不安定(ふあんてい)しかも不確実(ふたかた)を増(ぞう)しています。 そういふ時(とき)であればこそ、「変わるもの」、「変わらないもの」、「変(か)えるべきもの」、「けっして変(か)えてはならないもの」の見極(けんごく)めが大切(たいせつ)になってくるのではないでしよ

五号(ごごう)に詳(しょう)述(じゆつ) (しょうじゆつ)しましたように、

見極(けんごく)めが大切(たいせつ)になってくるのではないでしよ

「枯山水(かれさんすい)」とは少し大袈裟(おおげさ)ですが、拝殿前(はいでんまへ)の「目立て」の作業(さくぎ)をさせていただいたのです。 昨日(けふ)に、あらかた、落ち葉(おちば)等を「ジャンボ竹(さんぼたけ)がんぜき」で、除去(じょ

見極(けんごく)めが大切(たいせつ)になってくるのではないでしよ

「枯山水(かれさんすい)」とは少し大袈裟(おおげさ)ですが、拝殿前(はいでんまへ)の「目立て」の作業(さくぎ)をさせていただいたのです。 昨日(けふ)に、あらかた、落ち葉(おちば)等を「ジャンボ竹(さんぼたけ)がんぜき」で、除去(じょ

見極(けんごく)めが大切(たいせつ)になってくるのではないでしよ

うか。

◇英国のジョンソン首相は、陽性がわかった三月末、国民に向けたメッセージで、「コロナ危機で明らかになったことを一つ挙げるなら、社会なるものが確かに存在しているということだ」と語られました。社会とは人と人との結びつきを指し、その集合体が国家とするならば、コロナ危機、コロナ禍が問うているのは、社会が持つ「共助」の力を再認識し、取り戻すことではないかと語られたのです。実は、村人が一年に一度、神社に集まり村の大事な取り決めを行うというのが、「社会」の語源です。したがって、沢山の方々が神社に集う「まほろば」、素晴らしい場所にするというのが「社会」の語源に近づく神社運営ではないかと思えます。コロナ禍で、当たり前の神事行事を齎行することが困難となりました。しかしながら、感染症により不易を浸食されないよう、「変えてはならない」ものが、変えられないよう、「けつして変えてはならない」神事の厳修(げんしゅう)にとめて参ります。少しでも社会の語源に近づけるように。御自愛を祈ります。

◇八月の祭典行事会議報告

▼手水舎を花手水にしました！

*八月七日～十六日



▼月次祭 *八月一日、十五日

▼貴布禰神社月次祭 *八月一日

▼中元祭 *八月十一日～十六日

▼責任役員会常任総代会

*八月二十二日

▼山口県神社庁、同下関支部関係

▼下関支部幹事会 *八月四日

▼神社庁教化部代表者会議 *八月二十七日

▼神社庁臨時役員会 *八月二十七日

▼美祢社会復帰促進センター教誨活動

▼集合教誨(男子) *八月三十一日

▼その他

◆中央倫理法人会モーニングセミナー

*八月六日

◆初盆のお参り *八月十三日～十四日

◆迫町自治会役員会 *八月十九日

◆防火管理者再講習 *八月七日

◇九月の祭典行事会議予定(報告含む)

▼手水舎を花手水にします！

*九月二十日～二十二日

▼月次祭 *九月一日、十五日

▼貴布禰神社月次祭 *九月一日

▼若宮神社例祭 *九月四日

▼祖霊祭 *九月二十二日

▼山口県神社庁、同下関支部関係

◆顧問参与会 *九月九日

◆教化委員会、神宮大麻増頒布推進委員会

*九月二十四日

▼美祢社会復帰促進センター

◆集合教誨(男子) *九月十四日

◆釈放前指導講話 *九月十五日

◆集合教誨(女子) *九月二十八日

▼その他

◆下関西ロータリークラブ卓話

*九月二日

◆中央倫理法人会モーニングセミナー

*九月三日

◆迫町自治会役員会 *九月十六日

◆人権擁護委員

■常設(法務局)人権相談 *九月二十九日

▼九月限定御朱印

*上段 || 重陽の節句限定

*下段 || 秋分の日限定



*九月三十日まで頒布します